

第2学年 算数科学習指導案

単元名 「100より大きい数」

単元について

児童はこれまでに、10にまとめる数え方、10のまとまりが10できると100になること、120程度までの数の構成・数え方・表し方・読み方、120程度までの数の数直線表示と順序・系列・大小比較について学習してきた。その際、数え棒やおはじきなどの半具体物を10ずつのまとまりにして数える経験を重ねている。また、何十どうしの計算では、10を単位とする数の構成に着目して計算することを考えてきた。

本単元では、1000までの数の数え方や表し方、読み方を理解し、数の十進構造について理解を深めるとともに、数の大小関係や相等関係を記号で書き表したり、数の構成をもとにした加減計算ができるようになったりすることを目標としている。そのためにも、数を10や100のまとまりとしてとらえる見方を働かせることが重要である。

本時は、半具体物を操作する活動を通して、10のいくつ分で考えれば、既習の計算方法に帰着できることに気づき、何十どうしの加法で、繰り上がりのある計算や、百何十から何十をひく減法で、繰り下がりのある計算をすることができることを目標としている。

研究テーマとの関わり

【研究テーマ】見方・考え方を働かせ。数学的に考える児童を育てる指導の在り方

重点項目（1）「個別最適な学び」からの授業改善

ICTを活用し、半具体物を操作する活動を取り入れたり、支援プリントや応用問題を用意したりして、必要かどうかを児童に選択させ、「個別最適な学び」からの授業改善の実現をめざす。

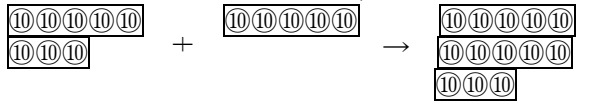
重点項目（2）協動的に学びを深める数学的活動の具体化

ペア交流を日常的に設け、自分の考えを仲間に分かるように伝えたり、仲間の考えを聞いて理解したりする機会を多くもち、仲間と共に学ぶ意識が高まることをめざす。

本時の目標 （10／11）

半具体物を操作する活動を通して、10のいくつ分で考えれば、既習の計算方法に帰着できることに気づき、何十どうしの加法で、繰り上がりのある計算や、百何十から何十をひく減法で、繰り下がりのある計算をすることができる

本時の展開

学習活動	指導・援助
<p>1 問題を把握し、課題をつくる。</p> <p>【80円のぎゅうにゅうと50円のクッキーをかいます。あわせてなん円になりますか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あわせて」だから、たしざん。 ・しきは $80 + 50$ ・こたえは100より大きくなりそう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> なん十となん十のけいさんのしかたをかんがえよう。 </div> <p>2 課題を追究する。(個人→ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使い、10円玉を動かしながら数える。 80円のぎゅうにゅう 10円だまが8こ 50円のクッキー 10円だまが5こ あわせると、10円だまが13こ 10が10こで100だから、10が13こで130 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">A. 130円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式で考える。 80は 10が8こ 50は 10が5こ $8 + 5 = 13$ 10が13こで130 A. 130円 <p>3 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のいくつ分かをかんがえると、かんたんにけいさんすることができる。 <p>4 ◆150-80の計算の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひき算でも、10のいくつ分かをかんがえると、かんたんにけいさんすることができる。 <p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10がいくつあるかをかんがえてけいさんすればいい。 ・10のいくつ分でかんがえれば、1年生のときに学しゅうしたけいさんと同じようにけいさんすることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 10のいくつ分でかんがえる。 </div> <p>6 たしかめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆問題 <p>はやくできた人は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスワン 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提示の前に、計算カードを使って既習の計算問題の復習をする。 ・デジタル教科書で問題を提示する。問題のプリントを用意し、ノートにはよう指示する。 ・80円と50円を合わせることから、加法で求められることを確認する。 ・前時までと違い、何十どうしの加法で、繰り上がりのある計算であることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・つまづいている児童には、丸図をお金に見立て、80円の牛乳は10円玉が8個、50円のクッキーは10円玉が5個で表せることを確認する。また、丸図を操作し、10円玉が10枚で100円になることを確認する。 <p style="text-align: right;">※研究テーマ (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア交流の時間を設け、自分の考えを仲間が分かるように伝えようとしてたり、仲間の考えを聞いて理解しようとしてたりする機会を設ける。 <p style="text-align: right;">※研究テーマ (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10のいくつ分という見方をすれば、1位数の加法と同様に計算できることに気付くよう支援する。 ・引き算でも同じように10のいくつ分で考えるとよいことに気付かせる。 ・計算が苦手な児童には、鉛筆問題のプリントを用意し、書く時間の短縮を図る。 <p style="text-align: right;">※研究テーマ (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算が得意な児童は、プラスワンの問題に取り組み、困っている仲間に考え方を伝えるよう指示する。 <p style="text-align: right;">※研究テーマ (1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答え合わせでは、10のいくつ分かを説明をさせる。